

『地域住民主体のICT獣害対策の推進』 (京都府福知山市)

取組概要

市の専任職員と研究機関が地域をバックアップ！
～獣害対策を「地域づくり」の手段として捉え、地域活性化に繋げる！～

- ・ 獣害対策の知見を持つ研究機関（大学）と連携し、科学的な根拠に基づいた獣害対策の実践
- ・ 市の正規職員として獣害対策の専任職員を雇用。フットワークの軽い、地域支援を実施。
- ・ モデル地区を中心にICT機器を活用した「見える化」を行い、地域住民主体の獣害対策の体制を確立。
- ・ 出前講座の実施による知識・技術の水平展開。

人口 75,343人
(R6.1.1現在)

担当 農林業振興課



IoTセンサーカメラを扱う地域住民

取組の効果

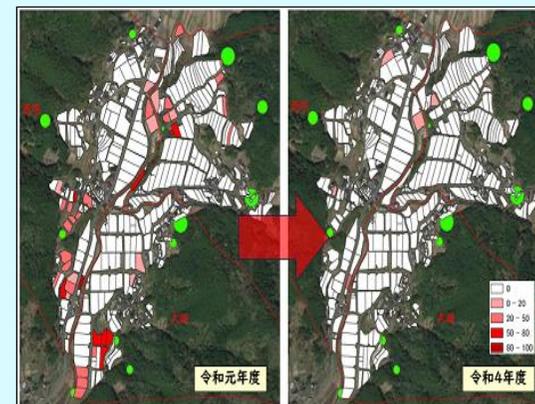
- ・ 見える化したデータをもとに、「防除」と「捕獲」を両立。捕獲数増加と被害軽減で地域の対策モチベーションも向上！
(シカ・イノシシ・サルによる出荷用農作物被害額を90%以上軽減)
- ・ ICT機器の利用による関係人口の増加と地域の活性化も！

創意・工夫した点

- ・ ICT機器の活用による見える化
- ・ 獣害対策を地域づくりの手段として捉え、担い手の確保と地域の合意形成を図る。

他団体へのアドバイス

獣害対策では地域の方の合意形成が不可欠。たくさん現場に出て、地域の方に信頼される職員になることが大切だと思います！



地域の被害の大幅軽減